

週日の説教

金 大烈 神父 2010年1月21日(木)

《与えられた使命“述べ伝えること”》

今日の福音(マルコ 3:7-12)では、噂を聞いて大勢の人々が、イエス様のところに集まって来ましたね。ヨルダン川の向こうからもたくさんの人々が集まってきました。だから押しつぶされる危険があり、イエス様が弟子たちに「小船を用意するように」言われた、と書かれています。

ということは、今も昔も時代に関係なく、悩んでいる人がたくさんいるということです。だから2000年前、「癒された」「恵みをいただいた」という噂を聞いて、困っている人々がイエス様のところに集まったのでしょう。そして、イエス様の公生活(30歳から3年間)の間、イエス様と弟子たちは、ほとんど枕に頭を置く暇さえないくらい、忙しくて厳しい生活をなさったのだと思います。あちこちからいろいろな人々が集まり、イエス様に何かを求めたり願ったりしたのでしょう。そのような生活が3年間続いたのだと思います。

この福音のように、2000年前にも困っている人はたくさんいました。そして今の時代にもいます。これからもいるでしょう。いつもいると思います。だから、2000年前のイスラエルには、イエス・キリストという方が表れたのです。そして困っている人々は、イエス様と接して、いろいろな希望をいただき、苦しみを乗り越える力をいただいたのです。では、今の時代はどうしたらよいのでしょうか。2千年前と同じようにイエス様が来られれば、それは再臨になってしまいます。人類の終末になってしまうかもしれません。だから、2000年前のような形では、イエス様はこの世には来られないでしょう。では、今の時代の悩んでいる人々、困っている人々は、どうしたらよいのでしょうか。イエス様は、そのための準備を2000年前になさっていました。ただ、私たちが、その準備されたことについて行っていないのです。

2000年前は、イエス様一人だけでした。力不足だったかもしれません。お一人で弟子たちを12人連れて、あちこちへ行くのは無理だったかもしれません。しかし、2000年後の今、世界の宗教の中でイエス様を信じている人々が一番多いのです。それなのに、世界は2000年前とあまり変わらないように思えます。いいえ、もっとひどくなっているのではないのでしょうか。子どもたちは、もっと残酷な犠牲になっています。けれども、私たちが心を合わせることができれば、そして本当に神様との一体した関係の中でまことの悔い改めができれば、2000年前よりもっと効果的に悩んでいる人、苦しんでいる人を助けられると思います。その役目を2000年前にイエス様が皆様にご与えられたのです。

皆様の隣にも、迷っている人、さまよっている人、何が正しくて何が間違っているか全然識別できない人が、たくさんいると思います。その人々に対して、皆様はキリストが与えた使命をどのくらい果たそうとしているのでしょうか。与えられた任務を放棄してはいないのでしょうか。もし私たちが、祈りのうちに、信仰のうちに、仕事をしようとするれば、多くの人々が求めてくるかもしれません。皆様の服にでも、触れようとするかもしれません。

皆様は、信者でない人々の前で、どのくらい堂々と自分の信仰を表しているのでしょうか。反省しま

しょう。私たちは、“この教会の中だけでキリストの愛を味わう”そういう生き方をするのではありません。いつも困っている人々に目を向け、心を配らなければなりません。人々が、わざわざ自分から足を運んで信仰を探しに来るのは、ありえないことです。もし私たちが、少しでも準備をすれば、たくさんの人々が、気軽に、好奇心を持って、この教会に寄ってみようとするかもしれません。

総会の時に皆様に申しあげると思うのですが、今年は、宣教、述べ伝えることに力を入れようと思います。皆様それぞれが、どうすれば正しい、相応しい、自分らしいクリスチャンになれるか、もう一回考えてみる機会になっていただきたいからです。

皆様、今も少し見回してみれば、困っている人々がいます。その人々に希望を与える役割が皆様にあることを意識しましょう。

ありがとうございました。